

## 第15回 ちゅうでん教育振興助成（平成27年度）

### 報告書資料 復興支援－21

学校名・団体名	大仙市立太田中学校
HPアドレス	<a href="http://www.edu.city.daisen.akita.jp/~ot-otayu/">http://www.edu.city.daisen.akita.jp/~ot-otayu/</a>
コース	学校支援
活動・研究のテーマ	つながろう 広げよう 復興の花と共に

#### 〈活動・研究の意義目的〉

東日本大震災から間もなく5年が経過しようとしている。時が経ち、震災そのものの記憶が薄れたり、被災当時の年齢が幼かったため、震災そのものの記憶があまり残っていない生徒が入学するようになった。被災地を直接訪問することで、現状を生徒自身の目で見、千年に一度と言われる大災害を後世に伝えるために状況を知ることができる。そして復興に向けて歩んでいる現地の方々との交流を通して、どのような交流活動が被災地の方々の心の支えになるのか、そして被災地の方々の心に寄り添ったものになっているかを考えながら活動を推進していく。

震災当初より継続して取り組んでいる活動であるが、変化している被災地の状況を生徒の目で確認しながら、生徒の発想を生かし活動内容の吟味や実際の訪問活動を生徒主体で取り組むことによって生徒の自主性、自己有用感の高まりが期待される。また、活動を地域と共に推進していくことで、自分たちを育て支えてくれる郷土を愛する心情をさらに高めるものと期待される。

本校生徒自身も震災を忘れない、被災地の方々の思いをくみ取りながら応援、支援していこうとする活動を展開することによって中学在学時だけでなく、今後長期にわたって被災地を思い続ける気持ちと自分を取り巻く人への配慮、さらに自他の命を尊重しようとする心情、ずっとつながってほしいという気持ちの高まりを今後の交流につなげたい。

## 交流活動のあらまし

1. 「深めようキズナ 学び、考える大槌のあの時とこれから」第1学年生徒全員（60名）と学年部職員5名
  - (1)平成27年6月3日～4日
  - (2)岩手県大船渡市、大槌町、釜石市を訪問した。大船渡市の津波伝承館館長から被災当時の状況について説明を伺った。また、三陸鉄道で企画している「震災学習列車」に乗車し、沿岸部の被災状況と復興について学んだ。大槌町仮設団地を訪問し、8月11日の訪問の際に行う「ふれあいミニコンサート」のチラシ配りをしながら仮設団地の住民の方々と交流をした。コンサートを楽しみにしているという話を聞き、これまでの先輩たちの活動が被災地の方を元気づけていることを理解することができた。
2. 「3. 11 FIELD TRIP～届けよう太田の花を！共に祝おう 新校舎との出会いを～」  
第2学年生徒全員（53名）と学年部職員5名
  - (1)平成27年9月1日～2日
  - (2)大槌学園仮設校舎を訪問し、5回目となる全校生徒で育てた花プランター250個の贈呈を行い、大槌学園8学年（中学部2年生）全生徒との共同作業で校舎敷地への設置活動を行った。また、岩手県庁防災課を訪問し、今後の復興関連事業についての説明と本校の被災地支援・交流活動を紹介し、アドバイスをいただいたり復興計画について説明を受けた。大槌学園8学年（中学部2年生）との交流・共同作業を通してお互いを思いやりながら作業、会話をすることができた。そこから心の距離も少し近づいたように思われる。学園で別れるときには、最後まで精一杯手を振り合っている姿から、お互いのつながりが強くなってきたように感じた。
3. 「蒼空、太田のまごころを届けよう！ 大槌学園文化祭参加と文化祭PR」  
第3学年生徒全員（58名）と学年部職員5名
  - (1)①平成27年10月23日～24日 ②平成28年3月
  - (2)①大槌学園中学部文化祭PRのため、大槌町内にあるショッピングセンターでPRのチラシ配りとよさこい踊りの演舞、合唱披露を行った。また、翌日に行われた大槌学園文化祭に参加し、太田地域から寄贈していただいた新米800kgの贈呈、本校の合唱披露と応援のエール交換をし、互いの交流の絆を深めた。大槌学園として新しくスタートした初年度、交流校を側面から応援する形として文化祭PRを行い、町民の方々に喜んでいただけた本校生徒も自分たちの活動が後押しになっていることを実感していた。また、大槌学園生徒の熱き表現活動を目の当たりにし、復興を牽引する中学生の姿に心を打たれた。
  - ②大槌学園中学部9学年（中等部3年生）の高校受験全員合格祈願と卒業祝いの気持ちを込めて本校3年生全員で「手作りフクロウ」を大槌学園9学年（中等部3年）分を制作し送付した。本校3年生と大槌学園9学年（中等部3年）の生徒同士は3年間継続した交流ができ、互いに顔を合わせることを楽しみにしながら支え合ってきた。巣立ちのときを迎えて、前途ある未来に幸多きことを祈り、フクロウ（不苦労）を贈呈した。
4. 「季節のメッセージを届けよう」 全校生徒（171名）と全職員
  - (1)平成27年8月11日、12月6日
  - (2)夏は手作りうちわ、冬は手作りカレンダーを全校生徒で制作し、大槌町内の2つの仮設団地住民の方々に届けた。本校生徒有志と小学生、高校生、地域住民の総勢100名ほどで1軒ずつ声をかけて配布した。さらに、冬の訪問では、JA太田生産加工婦人部の方々の協力もあり「おやき」、地域の小学校から太田特産物「曲がりネギ」を頂き、仮設団地に届けた。継続して訪問していることで再会を喜ぶ声や仮設団地敷地内で開催したふれあいミニコンサートで一緒に歌う姿など心のつながりが感じられる光景が多く見られた。
5. 「大槌と太田のよさを共有しよう」 全校生徒（171名）
  - (1)①平成27年10月10日～11日、②平成28年3月19日
  - (2)①本校学校祭に大槌学園中等部生徒会執行部14名を招待し「大槌学園語り部プロジェクト」を発表していただいた。大槌学園生自らが震災を語り継ぎ、大槌町復興の一躍を担おうと取り組んでいる「語り部プロジェクト」を本校生徒、保護者や地域住民が共に聞くことにより、太田地域で大槌学園を応援しようとする気持ちの高まりを感じる事ができた。
  - ②本校の被災地交流報告展を地域に公開し、大槌学園生徒が制作した大槌町特産物パンフレットの紹介を行う。また、本校の交流活動に関わる各学年のレポートパネルを展示し、地域の方々に見ていただき、活動協力の御礼とする。

## 成果、今後に向けて

今年度の本校生徒会テーマ“花輪創輝”～生みだそう新たな太中 Legend～は今まで築いた先輩方の伝統（被災地交流活動も含めて）をさらによいものにし、次へとつなげたいという決意が込められている。本校の教育活動の豊かな心を育むための核となる被災地交流活動は地域に根ざしたものになり、継承していこうとする心情も生徒の中で高まっている。被災地の状況は変わっていくが、生徒同士の心のつながりは大人になっても変わらないようにするためには、今後、被災地の実情を分析し、どのような活動を展開していくか、より慎重に考えていかなければならない。

今年度の活動がスムーズに進められたのは関係諸機関の御理解、御協力に加えて「ちゅうでん教育振興助成」のおかげであり、関係各位に深く感謝している。